### **CASE STUDY**



#### 会社概要

#### 株式会社コーセー

設立 : 1946年

資本金:48億4,800万円

従業員数(連結): 14,403名(2021年3月期末

嘱託・パートを含む)

本社所在地 : 東京都中央区日本橋3-6-2 URL : http://www.kose.co.jp/ 事業内容 : 化粧品の開発・製造および販売

#### 会社紹介

1946年に小林合名会社として創業。独自のブランドマーケティング、研究開発、品質へのこだわりを生かして、「コスメデコルテ」「ジルスチュアート」などのハイプレステージブランドから、「雪肌精」「エスプリーク」などのプレステージブランド、「ヴィセ」「ファシオ」などのコスメタリーブランドまで、多岐にわたる化粧品の開発・製造・販売を手がける。現在は、2026年の創業80周年に向けた中長期ビジョン「VISION2026」のもと、世界で存在感のある企業への進化を目指している。

SAP ERPのバージョンアップ事例



# 株式会社コーセー 様



# SAP ERPのバージョンアップとクラウド化を同時実施 アプリケーションからBASIS/クラウドまで BeeXがトータル支援

「インフィニティ」「雪肌精」などの化粧品ブランドで知られるコーセー。同社は2005年以来、SAP R/3 4.6Cを10年以上にわたって利用してきましたが、DXを確実に推進するため、より安定した環境への更新を決断。BeeXの支援のもと、SAP EhP6 for SAP ERP 6.0へバージョンアップするとともに、インフラ環境をアマゾンウェブサービス(AWS)に切り替えました。BeeXは得意とするBASIS/クラウドのみならずジョブ管理など周辺システムの移行やアドオン改修をはじめとしたアプリケーションレイヤーまでトータルで支援。このバージョンアップにより、システムのパフォーマンスは大幅に改善、運用負荷も軽減されました。

### 10年以上も前に導入したSAP R/3 4.6C システムとハードウェアがともに限界

1946年の創業以来、美を通して人々に夢と希望を与えてきたコーセー。同社は、「英知と感性を融合し、独自の美しい価値と文化を創造する」という存在理念のもと、伝統と革新を原動力として未来を築いてきました。現在では多様な顧客ニーズに対応するため、個性豊かなブランドをさまざまな販売チャネルを通じて提供しています。

同社の多彩な商品の販売と出荷を管理する基幹システムは、 長らくオフコンベースで運用されてきましたが、2002年に SAP ERP(当時はSAP R/3 4.6C)の導入を決定。2005年 に販売管理(SD)と在庫管理(MM)、翌2006年には会計管 理(FI/CO)を稼働させました。2009年にはハードウェアのリ ブレースを機に、SAP ERP 6.0へのバージョンアップを検討 したものの、開発リソースの都合で断念。結果として、導入から 10年以上にわたってSAP R/3 4.6Cを使い続けてきました。 そして2019年、ハードウェアの保守期限が迫ってきたことを きっかけに、同社は将来のS/4HANA化もみすえてSAP ERP 6.0へのバージョンアップ、およびインフラ環境のAWS への移行を決めました。その理由について情報統括部 コーポ レートシステム課 課長の長谷賢司氏は「2009年のときは、 自社で管理していた物流業務を外部ベンダーにアウトソーシ ングすることが決まっていたため、物流システムの再構築が発 生してしまいました。そのため人的リソースは物流に投入し、 SAP ERP 6.0へのバージョンアップは断念したいきさつが あります。そこから長い間使い続けてきたのですが、老朽化し たシステムに限界が来てしまいました。そこで、今後の事業の 変化やDXに対応できるよう、より安定した環境へ更新するこ とにしました。具体的には、SAP ERP 6.0の延長保守条件と なるSAP EhP6 for SAP ERP 6.0までバージョンアップ。 合わせてユニコード化を実施することにしたのです。さらに は、管理の負荷軽減、可用性の向上、セキュリティレベルの強 化を目的にインフラ環境をAWSへ移行することにしました。 当社では2012年ごろからAWSを利用してきた流れもあり、

#### コーセーにおけるSAPシステムの課題

- 10年以上前に導入したSAP R/3 4.6Cの システムが老朽化
- 2 ハードウェアの保守期限が迫る
- 3 今後の事業の変化やDXに対応できる環境が欲しい

#### BeeXによる解決

- 1 48時間以内のダウンタイムでバージョンアップと AWS移行を実現
- 2 アプリケーションからBASIS/クラウドまで トータル支援
- 3 運用負荷・コストが減少、可用性の向上や セキュリティの強化も実現

SAPシステムでも実績豊富なAWSを採用するのは自然の流 れでした」と語ります。

### 過去の豊富な移行実績と PoCでの検証内容を評価しBeeXを採用

コーセーは、SAP ERPのバージョンアップおよびAWSへの 移行について、パートナーを検討。複数のベンダーの中から BeeXを採用しました。決め手となったのは、過去の豊富な移 行実績とPoCでの検証内容にあったといいます。

「BeeXには数多くの移行実績があることに加え、その後の運 用まで手がけていることを知りました。そこでまずPoCの実施 を依頼し、必須要件であった年に一度だけ業務停止が許され る年末の48時間以内のデータ移行ができるかどうかを検証 してもらったのです。その結果、データ移行で48時間以内、ア プリ検証も含めて3日間での移行が実現可能で、合わせてパ フォーマンスの向上が期待できるという回答をいただいたこ とから、本番移行もBeeXに依頼することにしました」(長谷氏)

同社は2019年9月にBeeXへ要件を提示。先行して要件の確 認を行ったのち、12月にBeeXを正式にパートナーに選定、プ ロジェクトをスタートさせました。AWS設計構築からSAP上の アドオン改修・テスト、ERPバージョンアップに伴う新機能採用、 周辺システム移行などBeeXの支援範囲は多岐にわたり、コー セーとBeeXが相互協力しながらプロジェクトを推進しました。 本番移行は1年後の2020年12月末、正月休みの3日間を 利用して実施しています。

「今回の移行ではダウンタイムを48時間以内に収める必要が あったのですが、1回目のリハーサルではデータ移行とアプリ 検証合わせて70時間以上かかることがわかりました。そこで、 プロジェクトチーム全体で議論しながら、データ移行からアプ リ接続までの手順を並列化したり、作業手順を入れ替えたりす るなど作業の改善を行いました。サーバーもアプリとDBの1 台構成から、サーバー3台、DB2台の多段構成に変え、障害時 でも安定稼働する環境を構築しました。こうした工夫もあっ て、2回目のリハーサルでは48時間以内のダウンタイムを実 現することができました」(長谷氏)

今回の移行にあたっては、既存システムで作り込んだアドオン を削減しています。以前は約1,500本あったアドオンは 2009年の物流改革の際に700本まで削減されていました が、さらに500本まで削減しました。この点について情報統括 部 基幹システム課 課長代理の南邦利氏は「よりスムーズな 移行を目指すため、数を絞りこみました。不要な帳票やプログ ラムも見直し、全体をスリム化しています」と語ります。スリム



情報統括部 コーポレートシステム課

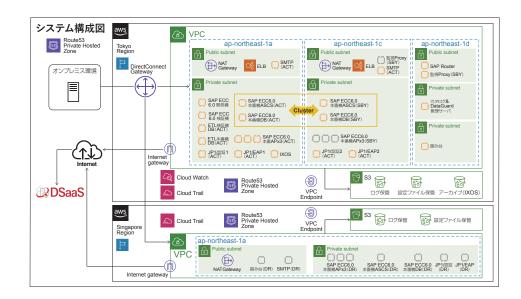
長谷 賢司 氏



情報統括部 基幹システム課 課長代理 南邦利氏

※ SAP は、ドイツおよびその他の国々におけるSAP SEの登録商標です。

- ※ SAF は、トイツのよびでい他の国づくにのけるSAF Sとの重数商帳です。
  ※ その他記載されている、会社名、製品名、口力などは、各社の登録商標または商標です。
  ※ 記載されている企業名および担当者の情報は取材当時のものです。
  ※ 本リーフレットに掲載されているロゴ、文章、写真その他イラストを無断で転載、複製、再利用を禁止します。



化の対象はERPのアドオンのみならず、データ連携先となる SAP BW/SEMにも及びます。コーセーでは各種経営計画に 必要な実績値、計画値のレポーティング・入力を担うSAP BW/SEMシステムを保持していました。今回のプロジェクト では、SAP BW/SEM上で実装されていたデータフロー、計 画機能、アドオンプログラムのSAP ERPへの移植もBeeXの 支援で同時実施、システム統合のスリム化も実現しています。

なお移行作業のほとんどは、新型コロナウイルス感染症の影 響による緊急非常事態宣言下に行われました。そのため、プロ ジェクトは、ほぼすべてオンライン対応となりましたが、スケ ジュールはおおむね予定通りに進んだといいます。プロジェク トを振り返り、長谷氏はBeeXを次のように評価します。

「大型案件のため途中で数多くの問題が発生しましたが、お互い 密に情報を共有することで解決に導くことができました。開発の 変更にも柔軟に対応していただいたのもありがたかったですね」

### システムのパフォーマンスが劇的に向上 運用にかかる負荷とコストも減少

コーセーがSAP ERPをバージョンアップしたことで、システ ムのパフォーマンスは劇的に向上しました。中でも、バッチ処 理にかかる時間は半分程度まで短くなったといいます。

「処理が早く終わるようになったおかげで出荷指示などが早く 出せるようになり、現場に余裕が生まれ、トラブルの減少や早 期解決につながっています。ユーザーが操作するトランザク ション処理も、速いものはレスポンス時間が10分の1まで短 縮しました | (南氏)

インフラ面では、AWSへの移行により可用性の向上やセキュ リティの強化が実現。新たに海外リージョンへのDR環境も構 築でき、事業継続も実現しました。そして自社の運用部分が 減った結果、負荷とコストの削減も実現しています。

「ハードウェアの導入コストだけでなく、データセンターのラッ ク代、運用に追われていた要員の工数などが減り、TCO全体 で削減が進んでいます。今後は、AWSの利用状況を見ながら 定額割引の料金体系に切り替える予定です」(長谷氏)

なお現在は、インフラの運用をBeeXへ委託していますが、ト ラブルなく安定稼働が続いているとのことです。

### 国内外のグループ会社のERPを 統合・バージョンアップ クラウド化などを進めることを検討

コーセーは今回のバージョンアップとユニコード化により、 EHP6 FOR SAP ERP 6.0の延長保守サポート(2027年 末まで)に対応することができました。今後はSAP S/4HANAも視野に入れつつ、次期基幹システムを柔軟に考 えていくといいます。

なお、国内外のグループ会社は個々にERPを導入しているた め、将来的にはERPの統合やバージョンアップを検討していく とのことです。

「グループとして経営実績を早期に把握するためには、SAP ERPで統一するのがいいのか、他のERPを採用するのがい いのかを検討していきます。また、インフラ環境もオンプレミ スからクラウドへと徐々にシフトしていく予定です」(南氏)

これに加えて同社は、業務のさらなる効率化に向けてDXを推 進していく考えです。その先駆けとして、ERPの周辺領域を中 心に、リアルタイムの実績把握や業務プロセスの改善に向け た自動化を進めていく方針です。

最後に、BeeXに期待することとして長谷氏は「アフターコロ ナの時代に向けて、オンラインとオフラインの切り替え、顧客 接点の拡大など、SAPシステム以外での支援もお願いしま す」と語ってくれました。

「美の創造企業」として、世界で存在感のある究極の高口イヤ ルティ企業を目指すコーセー。BeeXは引き続き同社のビジ ネスを支えていくことでしょう。



# https://www.beex-inc.com/